

カリキュラム考Ⅲ

年長児の英語活動報告

上野 めぐみ*

【要旨】 中央教育審議会は、2008年に小学校に〈外国語活動〉の新設を答申し、更に来る2011年度から施行される小学校学習指導要領は、〈外国語活動〉を領域として教育課程に位置づけ、第五学年、第六学年で、週一時間の授業を配当し〈英語〉を取り扱うことを原則とした。この状況下、小中高での、外国語としての英語（EFL：ENGLISH AS A FOREIGN LANGUAGE）を一貫した教育目標を基に、更に積極的にコミュニケーション能力の素地育成のために、幼稚園の英語活動において何が可能であるかの再考が必要になっている。実際の英語活動を通し、幼小の連携のためのコアを探る。

昭和29年に開園、創立56年を迎える文京学院大学文京幼稚園では、当初から3歳児クラスを開設、国際性を養うべく英語教育も導入されてきた。また、クラスごとの体操、月二回の土曜日の自由登園など、常に、新しい時代に沿った教育を研究し、実践してきている。文京学園創始者、島田依史子先生の建学の三精神は、誠実（SINCERITY）勤勉（DILIGENCE）仁愛（BENEVOLENCE）にある。この三精神は、幼稚園児に理解しやすい表現によって、こう定義されている。生き生きと元気に遊ぶ子、いっしょうけんめいがんばる子、やさしく助け合う子。こうした具体的なこども像を掲げ、日々保育活動を実践している。

平成20年10月文部科学省は、幼稚園教育要領解説を出しているが、第二章のねらい及び内容の中で、幼児の発達の側面から健康・人間関係・環境・言葉・表現の五領域を示している。保育内での英語活動はどの領域に入るのであろうか？当然、英語は、言語であるという所から、言葉の獲得に関する領域（言葉）の範囲と考えがちだが、実は、実際、英語活動の内容を考えると、五領域全てに関わっている事に気付かされる。今回は、年長クラスにおいては年間32 - 35回前後（2010年度は33回の予定）、週一回20分 - 25分、年間約700時間という英語活動のカリキュラムに焦点を合わせ、幼稚園と小学校の連携を視野に、就学前、五歳児英

*非常勤講師／英語教育

語活動を再考する機会にしたいと思う。

年間計画と5期に分けられた期案内¹⁾の保育活動との連動

保育年間計画表と英語活動の年間計画の照らし合わせ、年長クラスがいかにかに、三年の保育を経て進級して行くかを知るためにも、今回は、年少クラスからの三学年の年間計画の枠組みを参照する。(年度によって多少の内容の変化はある)各学年ともに以下の項目に沿って計画が展開される。

年少クラス (アンダーラインは、項目名)

①行事

②健康 生活習慣 遊び 体操

③人間関係

④環境

⑤英語

⑥言葉

⑦表現 作品名 製作 素材

欄外 シール帳の扱い 降園の仕方 イスの扱い うがいの仕方 製作

年中クラス

①行事

②健康 生活習慣 遊び 体操

③人間関係

他学年 (との連携)

④環境 畑・料理・園外・その他

⑤英語

⑥言葉 言葉遊び

⑦表現 製作 うた

年長クラス

①行事

②健康

③生活習慣 遊び

④人間関係

⑤環境

⑥英語

⑦言葉

⑧表現 作品名 製作 素材 うた 歌遊び 手遊び

欄外 シール帳の扱い ミニクッキング お話作り 共同画 係り活動 文字への関心

年間計画表は年度初めに、また、これらの期案の作成は、年度初めまでに、各学年の保育者（年長クラスを例にとれば、あお・みどり組各一保育者、学年付と呼ばれる保育者一名、計三名）によって、まず、骨格を組み立て、話し合いが重ねられた後、園長、副園長、他学年との話し合いや調整を経て、決められていく。期案は5期に分けられ、上記の枠で詳細が決定され、二ヶ月毎に英語講師にも届けられる。今回は年間計画ではなく、期案に焦点を当て、夏休みまでのⅠ、Ⅱ期を振り返る。年長児（五歳児）Ⅰ期（4月・5月）平成22年度を参考に例を挙げていく。

ねらい・子どもの姿・内容（歌遊び・製作・体操・遊びなど・英語）環境構成・援助配慮・製作・コーナーに具体的に細かな表現から、年中クラスからの課題や進級によって目標と出来る事柄を保育活動と英語活動に重ね合わせていく作業が連動という言葉で表現できるであろう。大まかな年間計画を立てた後、更に、子どもの姿などの項目から、ヒントを得て、その保育目標に沿うように英語活動の目標を立てていく。例えば、平成22年度Ⅰ期には一年長になったことを喜ぶ子どももいるが、中には新しい環境に緊張感や不安を抱く子どももいるとある。英語活動でも5歳児の一般的発達と個人的発達を鑑み、年中クラスで既習した歌や遊びを多く導入しながら、一部、新しい内容を導入するなどの心配りは必須である。

また、同じ項目に－ルールを理解し、互いに教えあいながら自分たちで遊びを展開しようとする子どもがいる－とあれば、ルールに従ってグループで活動できる英語活動を心掛けて導入、例えば、文字と音の関係の QUIZ What is the first letter of BUTTERFLY? などの答えを生活グループ（各学年は60名前後で構成され、各クラス30名を6つの生活グループ（1グループ5、6名）適宜期間、定めている）毎に数分の Thinking time 後に答えてもらうなどの形式で導入した。

近年、英語活動をどういった切り口で組み立てていくか等、何項目かの懸案事項を抱えて試行を繰り返している。ここで、英語活動の年間計画におけるコアとなる二要素を考えてみよう。

1：いかに英語圏の季節の行事を導入すべきか？

Easter、Halloween、Christmasなど近年 多くの商業基盤に乗った宗教的行事の紹介が様々な形でなされている。costume や関連商品の販売促進の目的ではあるが、最近では その起源や意義を詳しく紹介するコーナーもある。以前よりもずっと、様々な紹介形態が出てきている。保育・英語活動の一端として、いかにそれらを取り扱い、また、いかなる目標のもとにどの程度導入していかかが問題となる。日本ほど、多種多様な行事を導入し、ある意味で定着しつつある国は他に例が無いかもしれない。同園は、それぞれの行事をいかに導入していかかなど具体性、一貫性を持つという意味において、園児への Santa Claus の紹介の仕方や位置付けなどをはっきりとさせてきた。年少から年長までの三年間、いかなる場面にもブレを最小限にする為である。12月から1月は、Christmas から New Year's Day までの行事がどうしても目白押しとなる。だが、英語活動としてどの行事をどういった内容で展開させるべきなど毎年、

保育活動との連動のあり方を再考の中で、3歳から6歳という幼稚園児の年齢層を考慮し、英語圏の行事に関しては、あまり宗教という観点からのクローズアップではなく、あくまで異文化の紹介の一端として関連した Vocabulary の紹介や行事内容に即した Book — Reading や Story — Telling の導入が就学以前の子ども達には適宜であるとの結論に達した。年長には、世界のクリスマスと題し、起源や諸外国のクリスマスタイムの過ごし方を紹介している。北欧やアジア、中国などその時期に人々は如何に過ごしているかという扱いである。園児の反応や、時間の制約、他の条件を鑑み、単に関連語句の repeating のような形ではなく、語句の紹介を目的としその target となる Vocabulary の定着を意図した Matching Game、Missing Game や歌の紹介が適切な導入と考えられる。さらに、お餅つきなどの日本の行事も幼稚園の行事と重なり、良い機会なので、必ず紹介している。英語圏に限定せず、英語で日本の行事を扱うことにも意義があろう。

更に詳しく情報を求める子ども達の following-up のために、行事関連の絵本や DVD などを仲良しコーナー²⁾を設置し、園児それぞれの興味や好奇心に対応すべく、活動外の時間のためにも準備を予め行う必要性を感じコーナーを設置、また、英語活動導入前に担当保育者に、取り上げる予定の絵本の日本語訳を活用し、日本語で保育時間にあらかじめ導入してもらえよう依頼する方法を試行してみた。

どうしても活動時間内に欲張って多要素を盛り込みすぎる傾向があるが、園児の興味や好奇心をしっかりとサポートするには、的を絞り込むことは重要であろう。

2: 活動下にある教育目標の再確認をいかにするか

英語活動を通して、幼稚園児が就学前に習得すべき能力とは何かについて再確認を常に怠ってはならないわけであるから、英語講師は、team — teaching のパートナーである保育者との考えや方法にズレがあっては、活動の意義が薄れるという認識を常に持つべきであろう。あくまで、英語を学ぶのではなく、英語活動を通して何を身につけていくかの GOAL の認識なくしてどんなカリキュラムも有効とは言えないはずである。コアとなる生活技術 (Life skills) の習得は保育目標と必ず重なっているからである。

まず、幼稚園という一集団の中で、家族から離れ、一人で保育者、年少、年中、という縦のつながり、或いは他の年長 (自分自身を含めた) 横のつながりの中で意志伝達をする能力 (how to communicate) 自分以外を受け入れ、自分自身も受け入れてもらうことができるようになるための力の育成 (how to accept) また、年長で言えば20分から25分という英語活動を通して 能動的に集中力を持って、その活動に参加していく気持ちを育成し、自ら参加したい気持ちや楽しいと感じる感覚、遊びの中で失敗を繰り返しても成功するまで挑戦していく気持ち、継続力を育む (how to concentrate) ことに焦点を置き活動を組み立てるべきとの再確認の作業をしている。

Life skills はこれに留まらず enjoying ourselves や making friends · loving to learn · discovering

ourselves and becoming confident about ourselves・thinking in many ways・developing socially・exercising physical skills など園児が向き合うべき生活技術は多い。ただ、それらの要素は表現こそ違おうが Team 保育や各個性の尊重、自立心や「生きる力」の育成などが当園の保育活動の基礎となっているわけであるから、保育者との目標の確認は、どの活動においても常に行われるべき点である。

再確認のために整理すると、

- ・ 各学年共にチーム保育を行い、様々な角度から園児の様子を見守り、適切な援助を行う。（同学年 3 名の保育者が共通見解を持てるよう、日頃からよく話し合う）－連絡表を使って、それぞれの視点と感覚、計画と実践において、果たしてその中に gap がないかどうか。
- ・ 園児一人ひとりの個性をよく見て、良いところを伸ばすよう心がける。－活動の中で観察し得た園児の言動に、個人的・集団的観点から対応した英語講師や保育者などの言動に一貫性があるか。
- ・ 園児の自立心を養う。（常に「自分で考えて行動できるようになる」ことを意識する）－クラス活動、グループ活動の中で園児一人ひとりが、どのように参加していたかを複眼で意識的に観察し、適宜対応し、単に手を貸すのではなく園児自身が一人で答えを導き出すための follow - up が何であるか、英語講師や保育者常に意識するよう互いに確認作業を意識する。
- ・ 園児に、人に対する思いやりの心、諦めずに頑張る心など「生きる力」を育てる。－前述の挑戦する気持ちの育成は、あらゆる英語活動内容を年少クラスから年長クラスの三年間ほぼ同じ theme で内容の深さに変化をつけるという leveled - theme - based にし、既習事項とさらに現在できることよりちょっと上の内容にもチャレンジするという動機付け（motivated challenging）を常に意識して活動内容を吟味している。学園全体の教育目標である・誠実 Sincerity は生き生きと元気に遊ぶ子・勤勉 Diligence はいっしょうけんめいがんばる子、仁愛 Benevolence はやさしく、助け合う子と言い換えられた具体的な子ども像が英語活動における目標であることは言うまでもない。
- ・ 幼児期における異言語教育の目的が本来どこにあるべきなのかという原点から考えるに、発達心理学と照らし合わせ、英語活動を通して園児の中に何を生み、育てるか、また、具体的活動内容とその焦点は何にあるべきか、この流動的な時勢と社会の変化を考えると、そう簡単に決定はできない。母国語習得に関しても途上にある、就学前の、固定観念や先入観の少ないこの時期だからこそ、純粋な興味を持ち、柔軟な感覚で活動に取り組める、真っ向から＜言葉＞に向き合える時期にこそ、総合的な導入が可能であるに違いない。言語の四能力 listening ability 聴く力、reading ability 読む力、writing ability 書く力、speaking ability 話す力の育成といった外国語教育の目標スキルにあまり focus することなく、feeling ability 感じる能力の人間教育の基礎とも言うべき活動をめざす。
- ・ この数年、各学年の保育者とは研修以外に時間を作り、短時間でも活動について話し合う

機会を設けていくことに心を傾けてきた。また、英語参観や園だよりによる保護者と繋がり、子ども図書室の一角に英語図書(絵本その他、既習の歌を収録したCD、VIDEOなど英語関連品)のコーナーを配し、英語活動のthemeに沿った月間絵本の選択、前述の月間の園便りにおける英語活動の報告を兼ねた、Hello, everyone (2009年度の園便り内のtitle)・Big Smile (2010年度title)の充実も図ってきた。当然、幼稚園児の日常をよく知るのはまず保護者を筆頭とする園児の家族である。しかしながら、家族、家庭との連携はなかなか難しくどうしても一方通行になりがちである。英語活動に限らず、保護者・家庭との協力は重要事項である。まだまだの感が否めないが、わずか週一度20分の英語活動に意味を持ちえるかは今後、家庭との運動にも大きく意味を持ってくるであろう。

- さて、英語活動においては、保育者に頼りがちなClass managementにも心を配り、自身がかかりと、幼稚園児一人ひとりに目を配るべきと戒めているが、活動における反応や、変化などに、責任をもって観察していく義務を課せられているとは言え、単眼では、かなり難しいと感じてきた。そして、その問題を改善すべく、自ら求めてきた複眼という意味で英語講師以外での英語話者の存在の意味を考える機会を近年、様々な形で得ている。大学付属の幼稚園である利点を、いかに活かすかがそのカギと思える。毎年、5月には付属中学校、高等学校から、15人前後の女子留学生在が訪園する。その留学生は、短期、長期、国籍も多種多様である。英語活動そのものに参加していただけるように付属校の担当教師や留学先からの引率講師との連絡をし、訪園前後の園児達への動機付けとしての配慮にも工夫をし、活動内容も留学生の条件に合わせ、出身国についての様々な質問を園児から予め収集し、活動を構成し、その国の場所や食べ物、習慣について焦点を当てた活動を試みた。留学生訪園後、園児に訪園に対する感謝の気持ちを表す内容の絵や言葉によるプレゼントの依頼のポスターを制作し、保育者に依頼し仲良しコーナー(二つの年長保育室の間に位置する空間：通常、遊びのコーナーが保育者の年間計画に沿って、themeを持って創設され、行事写真や絵、クイズや工作場など、自在に天上、壁面、床面、様々な形で活用される空間)に一週間程度の期間、設置を依頼している。強制ではなく、あくまで園児の自由意志で書けるよう、文字サンプル(例えば、Thank you! や Please come again! ・ With love など)数点作り、また、日本語でのメッセージや好きな絵などと自分の名前(英語活動内で使用している名札を見て英字名・日本語も勿論可)を明記することのみは強調している。毎回多くの絵、メッセージが集まり、保育者が収集し、英語講師が訪園者一人ひとりに園児のメッセージや絵を使って、ランチョンマットを制作、ラミネート加工し訪園者に送っている。海外からの中高の留学生、また、当大学の国際連携教育プログラム Multi-lateral Student Exchange Program によって来日したアメリカ、St. John's University、College of St. Benedict、カナダ University of Thompson Rivers (2009年度は一名2010年度はなし)マレーシア University Teknologi MARA からの交換留学生の Halloween Activity を始めとする英語活動への参加の呼びかけ、幼稚園行事(運動会、日本伝統行事のおもちつきへの参加)

など、また交換留学生の引率教授やそのご家族への英語活動、幼稚園行事へのご招待などを実践してきた。

- ・また、今年度は、引率教授訪日の機会に4歳のお子様も当園の年少クラスに正式入園されるとの機会を得た。園児にとっても園生活を共にするという経験は、想像するにすばらしい実体験となるであろう。異文化交流の願ってもない機会を園全体、保育者、園児が得ている。すべてが新しい体験であり、試行錯誤ながら全力でサポートして行くことで様々な具体例を体験していくことになるであろう。近年、英語講師自身で英語話者の継続的な volunteer を依頼し、可能な限り、少なくとも、月二回程度連続で訪園者をお願いしている。（2009 - 2010 は 31 歳未婚の Australia・Sydney 出身男性）ALT として英語活動に参加し、英語講師同様、降園時まで園児と共に様々な活動に参加（給食ランチの参加や室内・園庭遊びなど：園からはランチと交通費が支給）英語活動では主に Book - reading を担当、英語講師はこの時間のみ適宜に必要な情報としての日本語を入れる役割を担う。
- ・英語講師が年間計画に沿って用意した絵本（Big Book や通常市販されているサイズの絵本や紙芝居やそれを拡大して作った教材）について、theme に沿った、あるいは関連した数冊の絵本の選定から、活動前に打ち合わせを行い、また、活動が短時間のため、不測事項の際の予定変更や園児の参加状況に対する対処を活動前後で話し合うなどの試みをし、ALT の視点と英語講師の視点がずれていないかの確認作業をしている。
- ・保育者に対する考え方や方法、日常保育との教材の sharing、活動前後に活用される連絡帳などで保育者と英語講師間の Team - teaching の形の報告を兼ね、活動日に必ず再考し、Team - teaching の意識を強く持つよう試行してきた。講師の意識や、活動に関する ALT や保育者独自の工夫や、英語活動に対する意識の持ち方にも回数を重ねるごとに変化があったように感じられる。
- ・また、2009 年度はアメリカ、ミネソタ州の現役小学校教諭の Ms. Poff（交換留学生の引率教授 Dr. Jim Poff の奥様）の大きな協力を得、9 月から 12 月の 4 ヶ月間 多大なる inspiring を受け、英語活動を展開することができた。そして、大学の国際交流センター内の tutor に声かけをし、センター員の皆様など、協力を得ることが可能である。自らが積極的に協力者を求める事で、大学付属幼稚園である多くの可能性を今後も最大限に活かせるよう努めていくことも必要であろう。近年の活動を振り返ることで、いかに意識的に園児に自然な動機付けが可能であるかを考え直す良い機会になった。この場をお借りし園の英語活動に積極的に協力者となって自らの時間を提供し、園児と共に時間を共有して下さった方々に御礼を申し上げなくてはなるまい。

さて、保育者の英語活動における意識の変化について話を戻そう。保育者の英語活動における意識変化は、英語活動に関する紀要執筆や園内外の研修における研究考察の下に、長期間に渡って培われたものと言えよう。年中、年長共に英語活動内の group 活動に 6 色に分けられた各クラス英字名札の活用の一つを例にとっても、保育者の工夫によって、段階的に保育者管理

下にして手渡していた名札を園児各自が自分の整理箱にもつことによって、愛着を持ち、個人差はあるが、文字への関心興味をもつようになる。さらには、一テーブルに全員の英字名札をランダムに並べ、自分の名札探しに挑戦するような試み、中には何度も間違えて他の園児の名札を手にして、自分の名札であるか否かを保育者だけでなく、他の園児に尋ねる園児、また、なかなか見つからない園児に対して、僕と同じTAで始まるから…と一緒に名札を探している姿も見受けられる。文字の形、文字の数、敷き紙の色(生活グループ毎に活動に活用できるよう6色に分けられている)などのヒントで個人差はあるものの、年中の園児さえも自分の名札の認識ができるようになる。「分かるから…ひとりで探すから」と、他の園児の手助けを断る園児、テーブルに残った名札が自分のものではないということに気がつき、「誰か間違っているようー!」と叫ぶ園児。保育者のこう言った保育活動に共通する要素を導入することから、自然に文字に対する意識を培い、英語活動も日常の保育活動にもリンクする園児の意識育成がされている。

活動は各学年の保育室とスマイルルーム(前年度まで、みくるルームとされていた多目的室-以前は数年に渡り、保育室から移動して英語活動はこのスマイルルームと呼ばれる多目的室で行う形態を取ってきた)また、園庭での活動と保育活動内に組み込まれた園外英語活動などと英語講師の園行事への参加(例・年中園外保育や年長 お泊り保育などへの参加・園外活動での英語活動内容の導入:英語の歌やゲームの実施・また、特別な例ではあるが、2009年度には、英語講師とALT二人の動物園引率:後述)と、幼稚園内での活動を広げる事に努めてきた。

この英語による保育活動の補佐はかなりの重要性を見出すこととなった。園児との関わりが多ければ多いほど、園児への英語活動への動機付けが高くなることを痛感したからである。幼稚園行事などに如何に多く参加し 保育者と園児の関わり方を感じるか、また、正課英語としての取り組みの月曜日以外にも出来得る限り、幼稚園に足を運び、園児を知る意義を、現在は強く感じている。各学年60名程度クラスでの英語活動は、通常2クラス別々に行われて来た。保育活動や、英語活動を最大限に活かす為に、2クラス合同(60名前後の園児の活動)が現在は可能であることも特記するべきであろう。決してクラス規模は 英語活動内容に良しあしには関係しない、つまり、少人数だから、良い、大人数では、難しい等の一般的な常識に左右されることなく、活動内容によっては、大きなクラスほど成功すると言った活動も発見した。これについては、またの機会を見つけることとする。

さて、ここから適宜に昨年度までの例を挙げながら2010年度年長クラスの英語活動を具体的に見ていこう。年間計画では、2010年度英語活動の年間日数は、計33日の予定で行われる。**2010年度I期4月5月:**

保育のねらい:年長組になったことを喜び、新しい生活や環境に慣れる。

年長児としての自信をもち、年下の子どもの面倒を見たり、園内の環境整備を意欲的に行う(年少の世話・係) 友達や保育者と考えを出し合い、話し合いながら、遊びや活動などを作り

上げていく。基本的な生活習慣を見直し、自分の力で行われるようになる。

子どもの姿：年長組になったことを喜ぶ子どももいるが、中には新しい環境に緊張感や不安を抱く子どももいる。年少児の世話や係活動をすることに期待を持ち、意欲的に取り組む子どもが多い。ルールを理解し、互いに教えあいながら自分たちで遊びを展開しようとする子どもがいる。遊びの中でルールを理解できず、一つの遊びが継続できない子どももいる。集団生活の中で我慢や時間の区切り、協力が必要であることを知っているが、まだ行動が伴わないことがある。年中に引き続き、鉄棒や縄跳びなどができていることに喜びを感じ、意欲的に取り組む姿が見られる。

内容：期案より筆者が一部抜粋

わらべうたや言葉遊びを通し、ことばのおもしろさに気づく。（さいならさんかく・じゅげむ・アルプス一万尺・おちゃらか）（括弧内全て歌の題名）

次の活動に見通しや時間に区切りをつけて、活動に参加する。

新しい歌に親しみ、内容を理解しながら歌い、替え歌作りも楽しむ。

（下線部分は筆者による、英語活動と保育活動の連動のための印）

歌遊び：月火水木金土日の歌・ロックマイソウル・だいだいだいぼうけん（全て歌の題名）

僕のミックスジュース・虫歯建設株式会社・虹（手話）・こいのぼり

制作：こいのぼり・母の日のプレゼント製作・自分の顔（アルバム）・木工・イーゼル・

共同画①

体操・遊びなど：放射線鬼・どろケイ・どんブー鬼・リーダーを探索

園長先生コーナー① ホッピング・オッピー

環境構成・援助配慮：一部抜粋

不安を抱いている子どもに対して、必要に応じて保育者が援助したり、時には友達同士で助け合えるように、年中時に親しんだ遊びを取り入れ、安心して過ごせる雰囲気を作る。

友達と楽しめる活動の場を多く用意して、その中で自分たちの意見を十分に出し合えるように保育者はできるだけ見守ったり、意見のまとめ役になる。子どもたちの興味関心が広がるように、こどもたちのつぶやきや発見を周囲の子どもたちに伝えていく。進級したことの喜びだけでなく、負担に感じることはないようにプレッシャーをかける声かけには気をつけ、皆がいることで助かっていることを伝える。

ホワイトボードの活用や生活しやすいように環境設定を保育者もその都度見直していく。

April：本年度は4月19日より英語活動が開始された。

4月2回、5月4回計6回の二ヶ月間のMonthly topicは前年度に引き続きFour seasons < Spring has come! What beautiful colors they are! >とし、本年度は、Easterは扱わず、年中時のReviewを中心に、自然界に存在する木々、草花などの色と5月の節句のために共同画として、こいのぼりを製作し色に対する意識を持った活動内容に重ね、color addition という activityを導入する予定を立てた。

色彩 Colors を sub - topic として扱うには、既習事項であるだけでなく、色絵の具を透明なペットボトルの水に加え、また、クラスカラーの青や緑に他の色を混ぜ、ペットボトルの蓋の部分に例えば白をつけておくことで園児が shake、shake、shake、Let's shake the bottle! と Color addition chants を繰り返しながらグループ毎にグループカラー Pink・Yellow・Yellow green・Purple・Orange・Blue に色を shaking しながら加えていく活動を連続した二回の活動でカラーシェイキング (color - shaking) を行う計画予定を立てた。

1st activity (実施日 4/19)

- ① Greeting : Weather、date、attendance
- ② Warming - up : ABC SONG (review : 年中クラスで採用していた歌詞を Warming - up とし、年長クラスで採用する歌詞の紹介と第一回の練習)
- ③ Song : ABC song ① Letters and sounds ① 歌詞部分と ABCDE それぞれの音の導入

A aaa apple B bbb ball C ccc cat D ddd dog E eee egg

前年度年中クラスと年長クラスは子ども劇場でそれぞれの参加歌として ABC song をかなり耳にする機会を得ているため A aaa apple Mmm yammy! などのパターンに違和感はないように感じる。また、それぞれの文字で始まる言葉に動きを各クラスの園児が考えることとした。

少し雰囲気や和らげるために Old Mc Donald had a farm : 復習として一回歌う。

- ④ Monthly topic : Seasons (There are four seasons in a year.)
Spring・Summer・Autumn・Winter (最初の音を強調して) - sounds and Letters の導入として
- ⑤ Weekly topic : What is the season now?・warm cool hot cold
- ⑥ Book - reading : No, David (What are the rules? ①)
- ⑦ TPR : review
- ⑧ Greeting :

2nd activity (実施日 4/26)

- ① Greeting : Weather、date、attendance
- ② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds ② ABCDE の復習
FGHIJ の導入 F fff fish G ggg good H hhh hat I iii insect
J jjj jam
- ③ Song : Good morning、mama ①
- ④ Monthly topic : Seasons (There are four seasons in a year.)

It is nice and warm outside、you went to the Bakery named Mary Jane last Monday and this morning you went to Joushinji Temple

: 年長クラスでは、それぞれ時間差をつけクラス毎に、冒険Ⅰとして近隣のパン屋産に、冒険Ⅱとして浄心寺を訪れ、その後 英語活動に入っている。こうした保育活動の年間計画、月

案、週案、日案の中で得る情報によって、動機付けの強い theme を毎年発見する。今回も、年中クラスで前年度導入した directions の復習として園児の冒険 map を使い近隣の地図をホワイトボードに張り、子どもたちに (go) up ・ (go) down ・ と誘導を促す活動を加えた。Right ・ left ・ straight という新しい要素を加えた。

⑤ Game : Let's go to Mary Jane (Bakery) and Joushinji (Temple) Map Game

⑥ 地図に次回導入する 6 色の建物を配し、色彩に対する attention を向け、色を使った活動予告をする。

⑦ Book - reading : David goes to school (What are the rules? ②)

⑧ TPR : review

⑨ Greeting :

3rd activity (実施日 5/10) 年長クラス英語参観第一回

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds

ABCDEFGHIJ の復習と年中クラスで導入の sing and act with 2 actions (clapping ・ touching your head)

③ Song : Good morning, mama ②

④ Monthly topic : Colors ① Color addition

Blue plus white is light blue ・ sky blue

Green plus white is light green ・ yellow green

Red plus white is pink, pink

What color will we get blue plus red?

What about orange and black?

など実際 二色の混合をグループ毎に shaking chants を繰り返しながら進める。今回は三色混合を活動とすることを予告し、また更に、興味を持った園児のために英語活動後 個々にお昼休みに新たなチャレンジができるようペットボトルを用意していることを告げる。

⑤ Book - reading : What mommies do best

⑥ TPR : review

⑦ Greeting :

4th activity (実施日 5/17) 附属中高への交換留学生 12 名と引率の先生三名の来園 ・ Hall にて交流活動 附属高校の引率教諭から事前に連絡を受け、活動内容を打ち合わせ、前半 5 分は routine の活動、後半は留学生による Game の導入と実践 最後は TPR と Number Game で時間をまとめる。留学生は昼食を園児ととり、12 時 20 分に留学生は帰校 volunteer - ALT1 名の参加

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds

③ Song : Good morning, mama ③

④ Hokey Pokey の歌の導入と実践

⑤ Game : Duck duck Goose :

最初に英語講師と留学生で見本を示し、日本ではハンカチ落としに近いゲームであることからすんなり導入実践も楽しくできた感がある。

⑥ TPR・Number Game

⑦ Greeting :

園児は年長に進級後、年中から段階的に時計の見方を導入されており、また、時間に意識を持つよう保育者から導かれており、年中時にはクラス内に、年長では、二クラスの共通の場である2階の踊り場に設置された time - table を見て各自その日の主なるスケジュールの確認ができる配慮がなされてきた。

ここで、5月17日の日案を参考に年長児の一日のラフスケジュールを紹介しよう。9:10—20の登園・身支度9:30園庭にて写真撮影。その後2クラス順番にHallにて留学生との交流・英語活動。11:10係の砂場片付け・入室。昼食12:20 留学生とさようなら(挨拶)12:30避難訓練。13:10砂場片付け入室・降園準備 14:00降園とある。この日の保育者との連絡帳の担任保育者のコメントには、「前週から留学生のことは、(園児に)伝えており、子どもたちも楽しみにしていたようです。最初は変わった雰囲気に対し少し圧倒されているような姿もありましたが、G(グループ)毎に踊ったり、最後にゲームができて良かったと思います。子どもたちからも笑顔が見られました。あとは、どの程度保育者側が声掛けしてよいのか、など事前に顔を合わせて打ち合わせができれば一番良いですね。」とある。(日案より抜粋、括弧は筆者が加筆)また、「今日の留学生との交流、とても楽しんでいましたね!ダンスも見てすぐにまねのできる簡単なもので良かったと思います。もう一つのゲームも分かりやすいルールで全員がハラハラドキドキを楽しめました。ランチタイムにも来て頂き、子どもたちはとても喜んでいました。好きな時間の遊びも積極的にかかわる姿が見られました。やはり、素晴らしい活動ですね。」(年長クラスの二名の保育者と一名の学年付きとの英語活動の連絡帳の中より抜粋)とあり、学年付保育者は「子どもたちにとって貴重な体験ができましたね。(こうして 留学生の訪園の機会がある)文幼(文京幼稚園)の子どもたちは幸せですね。はじめはとても緊張していた子どもたちでしたが、だんだん楽しんでいました。内容も良かったと思います。急遽の内容変更もあったようですがそれは仕方のないことだと思います。楽しい雰囲気が味わえただけで、はなまる(成功)だと思えました。」と記している。(括弧内は筆者が加筆)保育者との連絡帳での意見交換は、非常に意義深く、英語講師の英語活動を振り返ることで、次回活動への参考と改善に役立っており、theme - based に忠実になるあまり、実際活動が不自然な流れになっていたなど自分自身の気づきや諸々の反省、記録としての意味もある。年中から引き続き、それぞれのクラス担任になった保育者の各園児に対する理解と現状把握は、驚くばかりで、英語活動内で起こった小さなアクシデントに対して質問をすると、その経過と結

果を活動後に報告がある。学年付はさらに客観的かつ2クラスを同じ視点で比較する立場として、保育者としてのキャリアもあるその視点、感覚は、二人の担任同様、大いに英語活動に限らず、非常に学ぶところが大きい。幼稚園内の英語活動に関心を持ち、伸びやかに自分のクラスにどんどん英語活動を導入していく保育者達は、個人的にも英語に対して積極的であり、頼るところも大きい。

5th activity（実施日 5/24）

- ① Greeting：Weather、date、attendance
- ② Warming - up：ABC SONG Letters and sounds ABCDEFGHIJ の復習
KLMN の導入 K kkk king L lll lemon M mmm monkey N nnn No!
- ③ Song：Good morning、mama ④
- ④ Hokey Pokey の復習 body parts（foot・hand…）in・out・right・left に focus して
- ⑤ Game：Duck duck Goose ②
- ⑥ Book - reading：1 2 3 Jump（ALT 主導）123jump の部分を chorus - reading：
前年度は二週にわたって読みきかせを実施したが、今年度は一挙に読み進めた。
- ⑦ TPR：Jump like a frog・Fly like a butterfly・dragonfly…

⑧ Greeting：

6th activity（実施日 5/31）

- ① Greeting：Weather、date、attendance
- ② Warming - up：ABC SONG Letters and sounds OPQ の導入
O ooo orange P ppp pencil Q qqq queen
- ③ Song：Good morning、papa ①
- ④ Monthly topic：Colors：color addition group 毎に活動（shaking）
- ⑤ Book - reading：A color of his own ①
- ⑥ TPR：shake your body・head・hands
- ⑦ Greeting：

連絡帳には、「ABC song での gesture は見よう見まねだけでなく、いつどこで gesture するかなどが理解できている子が多く見られるようになりましたね。中にはく何（を）言ってるか難しくて分からない」とあきらめモードな子もいるので、自分で（園児が）いつどう gesture するか分かるように suggest していきたいと思います。色の addition はよく理解していましたね！楽しそうにやっていました。」「本日の ABC song は動きが複数あったこともあり、とても集中していましたね。ついていけずあきらめる子もおらず、前の表示や Ms. Ueno の動きに注目していました。はじめに比べ、ずいぶん落ち着いて取り組めるようになったと思うのですがいかがでしょう？ Hokey Pokey は前回より上手になったと思います。曲のテンポに合わせての right・left がまだ難しいようですが、楽しんで行う様子が見られました。やはり、継続が大事ですね。理解→楽しさにつながると改めて実感しました。」

2010年度Ⅱ期6・7月

保育のねらい：旅行に向けての計画や準備についての話し合いに意欲を持って参加し、自主的に生活していこうとする。畑の世話をしながら野菜の生長に興味を持ち、大切に育てる。

子どもの姿：好きな遊びをするとともに、少しずつ新しい遊びにも取り組むようになる。生活範囲が広がり、活発に活動するようになる。皆で計画した旅行計画に期待を抱く子どももいれば、不安な子どももいる。グループの中で協力する子どももいるが活動に対してマイペースな子どももいる。積極的に思いついたことを発言できる子どももいれば、恥ずかしくて出来ない子どももいる。クラスや全体のホワイトボードの予定を確認をしながら、見通しを持って生活が徐々にできるようになってきている。

内容：期案より筆者が一部抜粋

生活グループで行動する楽しさを味わう。(昼食 当番活動 係活動 ミニクッキングなど)

ホワイトボード、一週間の予定表、持ち帰り表を見ながら、身の回りのことなどを自分でする。

身近な自然に接して、季節の変化に興味を持つ。(あじさい・かたつむり・水たまりなど)

(下線部分は筆者加筆)

歌遊び：キャンプだホイ・やほっほ夏休み・めざせ宝島・おひさまになりたい・もえろよもえろ・ずんごろぶし(全て 導入された歌の題名)

制作：木工経験・壁面装飾・マープリング(：水を紙に塗り、絵筆や絵の具を使って溶かした

絵：大理石模様のようになる、乾燥後、しおり&七夕飾りの制作)・イーゼル(easel：画架を使つての作業)

体操・遊びなど：新聞を使ったゲームなど・パラバルーン遊び(カラフルなナイロン製の円形の端を園児30名ほどで持ち、掛け声や音楽等に合わせて、中に空気を入れて膨らませた状態にしたり、左右に振って形を変えていく団体の遊び)フォークダンス(タタロチカ)チェコリ・大工のきつつき・夕涼み音頭・ぐるぐるケンケン(遊びの名前や、使用する音楽の題名)

コーナー：園長先生コーナー② ドロけい

新聞つなぎ遊び(雨の日)(グループ→全体)

環境構成・援助配慮：期案より筆者が一部抜粋

ルールのある遊びを用意し、集団での遊びの面白さや楽しさを経験できるようにする。新しい遊びについては、子どもたち全員が一度は必ず経験できる機会を設けるように配慮する。植物の生長や虫など発見した物に対し、発表の場を設け、周囲の子どもたちも興味・関心が広げられるようにする。雨の日合った遊びがあることを伝え、自分で安全を守って遊べるよう声かけをしていく。

製作：くぎうち とんかちの扱い マープリング(しおり)七夕：短冊 壁面装飾：障子紙のたたきぞめ

7th activity (実施日 6/7) ALT の参加協力

① Greeting：Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds A から Q までの復習

③ Song : Good morning, papa ②

④ Monthly topic : Colors : color addition ② group 毎に活動 (shaking)

⑤ Book - reading : A color of his own ②

⑧ TPR :

⑨ Greeting :

8th activity (実施日 6/17)

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds RSTU の導入

R rrr rabbit S sss snake T ttt tiger U uuu umbrella

③ Song : Good morning, papa ③

④ Book - reading : Dad, I can't sleep. (animals · numbers)

⑤ TPR : miming quiz (insects)

⑥ Greeting :

9th activity (実施日 6/21)

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds VWXYZ の導入

V vvv victory W www watch X xxx box Y yyy yes!

Z zzz zero

③ Song : Rock my soul ①

日本語で既習かつ定着した同タイトルの歌を英語で

④ Rock my soul の歌詞に合わせ

preposition : in on の復習 over under around の導入

adjective : right left の復習 high low wide の導入

⑤ Book - reading : I am water.

⑥ TPR : climb go under turn around

⑧ Greeting :

10th activity (実施日 6/28) ALT 協力参加

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds

③ Song : Rock my soul ②

④ Topic : snail ① body parts カタツムリの身体についての quiz

preposition : in on over under around

adjective : right left high low wide などを snail を使って、

A snail is on the leaf. などの repeating

⑤ Book - reading : Weather (水たまり puddle あじさい Hydrangea カタツムリ snail などの季節に沿った単語を意識して導入)

⑥ TPR : climb go under turn around

⑦ Greeting :

11th activity (実施日 7/5)

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds

③ Song : Rock my soul ③

④ Topic : snail ② body parts

カタツムリの生態についての quiz (colored poop)

preposition : in on over under around

adjective : right left high low wide 等 snail を主語に使用して、

A snail is under the leaf. などの repeating

⑤ Book - reading : The treasure hunt (What is treasure for us?)

⑥ TPR :

⑦ Greeting :

12th Activity (実施日 7/12)

① Greeting : Weather, date, attendance

② Warming - up : ABC SONG Letters and sounds

③ Song : Rock my soul ④

④ Game : Let's play the game!

園児によって命名された冒険旅行6グループに分かれ グループ名はあお組 shell・ruby・dolphin・bamboo leaf・cotton candy みどり組 roulette・bream・pomegranate・eagle・horseshoe crab と決定。それぞれの写真を A3 サイズに puzzle として製作、各園児が必ず1ピースは自分で考えて組み合わせグループのシンボルに完成させる。また 完成し終わった時点で全員が声を合わせ、Finished. と告げて goal! とした。この puzzle に関しては、近年試行錯誤してきた。どうしても一人ひとりが参加できないと待つ時間が出来てしまい、また個人差があるため、グループ毎にするとグループの中の数名が主導してしまい、ゲーム自体を楽しめない結果になってしまう可能性が出ていた。今回のルールで行うことで全員がそれぞれに考え、試してみることが可能となったように思う。教材をいかに活かすかは、ある程度、実際園児と共に実践してみないと分からないケースが多い。また、Puzzle のような教材は、他グループの写真 Puzzle を試し、何度も繰り返して楽しめるものである。保育活動で使用した教材教具、或いは英語活動で使用したもの等教材教具の共有は定着などの面において、理想的かもしれない。

⑤ TPR : climb・ go under ・turn around

⑥ Book-reading : Keep our environment clean :

⑧ Greeting :

夏休み前の活動は、全12回で終了した。この後、7月18・19日二日間に渡る年長冒険旅行（学園施設：軽井沢セミナーハウスにて）に参加。おもしろ荘（保育者と園児によって名づけられたホテル名：実際は、学園の保養施設）という宿泊先では、保育者と園児が作り上げた活動が展開され、戸外探検には英語活動の要素（Rock my soulの歌をグループ毎に歌い上げるなど）の様々な要素の入ったスタンプラリー形式の活動を楽しんだ。

2010年度の五歳児の英語活動年間目標は①文字と音の関係性、特に音に対する意識を育てる。②pleasure - learning、つまり、徹底して〈遊び〉を取り入れて、自然に保育生活の中に英語活動が活きるような意識をもったカリキュラムに沿った活動の展開をする。年度初めに英語活動の第Ⅰ期（4・5月）の目標は年少から続けてきた挨拶に自信を持って大きな声で挨拶が返せる。点呼の際に楽しんでYes・Here・Presentとはっきり答えられるようになる。英語の指示に対して、楽しく元気に動く。真似ではなく、指示をしっかりと聞いて理解する。第Ⅱ期（6・7月）季節の言葉・天候などに興味を持ってrepeatingする。第Ⅲ期（9・10月）alphabetの文字と音について関心を持ち、uppercase「大文字」・lowercase「小文字」の違いに意識させ、園児に発見の機会を作る。第Ⅳ期（11・12月）Book - readingでは、お話の中に出てくるRefrainの箇所にはchorusやrepeatingに積極的に参加する。英語独特のRhythmに慣れ親しむ。第Ⅴ期（1・2・3月）英語による説明によって決められたルールの中で他の園児と協力して一つの答えを導き出し、結果を受け入れる。特にグループ活動として導入するゲームは細かな配慮をし、園児一人ひとりに役割を持たせ、それぞれの達成感を持って能動的に楽しめるように、発表の場を持つ。

文部科学省は2011年度から小学5、6年生で必修化される小学校の英語活動の概要を発表し、同省作成の教材〈英語ノート〉（試作版）で計285単語と中学一年生レベルの50表現を導入し、小学校卒業時点で、英語を使って遊ぶ、自己紹介ができることを目指すとした。果たして、英語ノートはどの位活用され、またどの位の定着を期待できるであろうか。日本以外の国々での英語の取り組みの進化は眼を見張るものがある。日本と他の国々の英語教育を比較する必要がないという意見もある。しかしながら、他の国々の教育の現場知らないで良いのであろうか。どんどん良い点を活用し、日本の現場に活かしていく方が得策ではないかと感じないわけではない。今日本の考える目標の下に全てを逆算して、小学校就学前の子どもたちに、母国語の発達途上のこの時期において、母国語以外の異言語の活動としての英語活動は、一体どのような意義と結果を持つのであろうか？としっかりと考え直していく時期であると思う。小学校学習指導要領の第4章外国語活動、第1目標にはこうある。外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。勿論その延長上にしっかりと幼稚園の英語活動もなければならぬのだが、果たしてどうであろうか。遊びを通してPre - study期としての内容を国語、算数、理科、社会、音楽、体

育、道徳といった教科の基礎となるよう、決して偏らない内容を英語活動の年間計画表に散りばめることは可能なのであろうか。興味や好奇心を刺激する内容を 言葉 (language art : communication · vocabulary · building) · 数 (math : numbers : cardinal numbers/ ordinal numbers) 発見 (science : animals · insects · plants · flowers · nature) 表現 (expression : music · art) · 運動 (PE : Physical Education) の観点から偏ることなく theme を設け、年少、年中、年長の発達状況に合わせ、それぞれ内容を少しずつ深めていく工夫は行ってきた。また、英語話者や他の言語話者の協力を経て、その国々の特徴や生活・習慣に触れ、異文化・異言語などに対する自らの発見を素直に受け止められる環境を作る。そして、何よりも 子どもたちに出来る限り、寄り添っていく。常に新しい眼で 子どもたちの生活環境を知り、子どもたちの興味と好奇心の的を見定める。多種多様の眼や感覚や考え方・接し方で 子どもたちを観察し 柔軟な頭でカリキュラムの見直しを図っていくことであろう。現場にこそ、improvement のヒントがあり、試行があって、見直しを繰り返す。真摯に活動に対する反省と試行と観察を繰り返すことで生み出されるものがあるように思う。園児が現在の状況下で国際的共通語としての英語を楽しんで知ろうとする環境設定についても課題は多い。帰国子女や保護者の母語が英語やその他の言語である園児もここ数年増え続けてきた。また、海外駐在員や研究員の家族として英語圏に移る為に日本を離れる園児も多い。正課の教科英語に小学校から向き合う子どもたちも多い、当然、子どもたちは何らかの形で英語や他の言語や文化・習慣と、在園中、卒園後向き合う。果たして、園での英語活動がいかなる形となるのかを追跡調査しなければならない時期が訪れているのではあるまいか？今、もう一度原点に立ち返り、幼小中高大という教育機関の連携はいかになされるべきかを考え直すべきであろう。英語教育に携わる人間として、また、日本人として、貪欲に日本語、英語等の必要言語<ことば>を、意志伝達の為の、また生涯を通じて人生に深く広く影響力を持ったものとして考え、一貫性を必要とする教育の重要な要素として、あらゆる文明機器の発達した現代でいかにその意味を見出し、扱っていくかの vision を社会全体が問い直す時が来たと考えている。

注

- 1) 期案：幼稚園は、園毎に、一年を、子どもの保育生活に沿って、年間案、学期案、月案、日案を組み立て、それぞれの保育活動の骨格を担っている。同園では、一年を均等に分けず、本文にもあるように五期 (I期 4・5月 準備期① II期 6・7月 準備期② III期 9・10月 充実期① IV期 11・12月 充実期② V期 1・2・3月 総括完成期と位置付けている) としている。
- 2) 仲良しコーナー：文京幼稚園では、年少クラスを一階ウサギ、ことり、リス (各クラス 20 名前後) 年中クラスを二階に配しキリン、ヒツジ (各クラス 30 名前後) 年長クラスも二階 (あお、みどり 各クラス 30 名前後) 計 7 クラスで構成されている。年中、年長 2 学年の保育室は仲良しコーナーという共通スペースを有し、ままごと等や、学年の保育内容に沿って 不定期に様々なコーナーに変化していく。

参考文献

文部科学省（2008）『幼稚園教育要領解説』

アレン・玉井光江（2010）『小学校英語の教育法—理論と実践』大修館

吉田研作（2008）『小学校英語指導プラン 完全ガイド』アルク

樋口忠彦・大城賢・國方太司・高橋一幸（2010）『小学校英語教育の展開』研究社

（2010.9.24 受稿, 2010.11.2 受理）